

長野県埋蔵文化財センター ニュース

みすずから

平成 16 年 12 月 10 日 発行

千曲川の水辺でのお祭り跡か？

川久保遺跡 下水内郡豊田村大字豊津

前号で紹介した古墳時代と平安時代の集落跡とは別な地点で、弥生時代中期の栗林式土器が多量に出土しました。土器は多くが完形品で、舌状にのびた微高地の斜面にまとまっていた。微高地上には火を焚いたと思われる不整形な穴や、直径 30 cm ほどの円形の穴が不規則に並んでいました。竪穴住居跡などが見られないことから、居住した場所でないことがわかります。石器がほとんど出土しないことも、一般の集落遺跡とは異なる点です。

土器は壺、甕、鉢、高坏など、一般の集落と同じ形のもので、甕形土器には煮沸の痕跡が認められます。祭祀の跡とする説もありますが、千曲川を望む微高地で何が行われていたのでしょうか、興味深いことです。(鶴田典昭)



川久保遺跡の遠景



出土した完形の弥生土器 (拡大)



微高地の先端をめぐる溝と弥生土器出土状況

濠で囲まれた弥生時代の集落を発見！

西一里塚遺跡 佐久市岩村田

西一里塚遺跡は、以前に圃場整備事業に伴って発掘調査され、千曲川流域で最初に見つかった環濠集落として著名です。今回は中部横断自動車道の建設に伴い発掘調査しています。これまでのところ、弥生時代後期以降の水田跡、弥生時代後期の竪穴住居跡4軒、円形周溝墓9基、環濠と思われる幅約2mの溝が発見されました。円形周溝墓の主体部からは鉄釧1点とガラス小玉8個、歯3点、石鏃7点、包含層から土偶の頭部（弥生時代）が出土しています。佐久地方ではあまり例のない珍しいものです。現在調査中ですので新たな発見がありそうです。（上田 真）



円形周溝墓の全景



弥生時代の土偶

人骨が良好に残る江戸時代の墓

石子原遺跡 飯田市山本

伊那谷の南西部、古い扇状地が細長く残った丘陵上に所在する石子原遺跡では、たくさんの江戸時代のお墓が発見されました。その中でも17号墓と呼ばれるお墓からは、元文一分判金（1両の4分の1の金貨）やサイコロなど豊かな副葬品が出土しました。特に、一分金は、柄鏡・はさみ・毛抜き形鉄製品とともに人骨の横からまとまって出土しました。柄鏡には、二重に巻かれた布さらに紙で包んであった痕跡が認められ、手厚く葬られた様子がわかります。江戸時代のお墓には六道銭と呼ばれる銅銭が入られるのが一般的です



埋葬人骨と人骨の記録



副葬された鏡と一分金

が、これらの副葬品はお墓の被葬者の身分や墓地全体の性格、また、当時の生活の様子を考える上で貴重な資料となっています。（石上周蔵）

“日本最古の列石”をどのように活用するか！

フォーラムあづみの

国営アルプスあづみの公園(大町・松川地区)建設事業に伴って調査された山の神遺跡を、公園内で活かしていく手立てはないものかというきっかけで立ち上げた今回のイベントは、見学会・講演会やシンポジウムを通して、地元の方々に地域の文化や自然を再認識していただく機会となりました。さらに、今私たちは子孫に何を伝え残していかなければならないかという問いかけにもつながりました。

北アルプスを背景にした里山の自然。祖先の知恵と努力が結集された文化財。今回のイベントを契機に「歴史に残る公園」づくりへと、さらに議論が深まればと思います。



見学会(調査後に砂で覆い保存した縄文早期の列石)

整理作業の窓から

ひがしばた 東畑遺跡

(技術指導職員派遣)

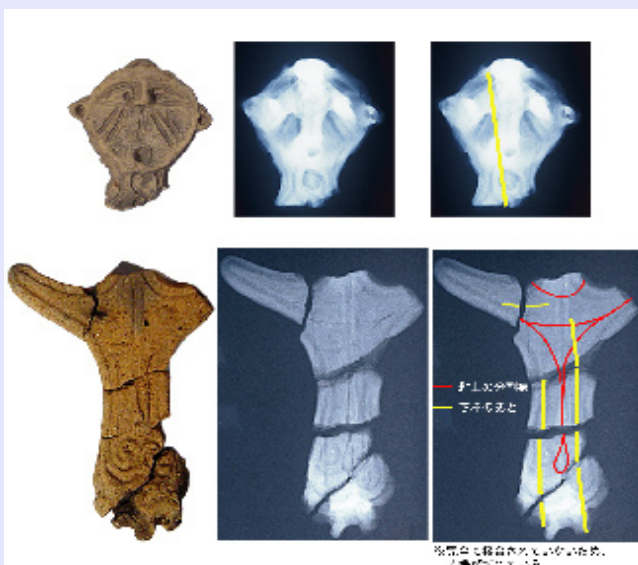
どぐう 土偶のつくり方

東筑摩郡坂北村教育委員会

縄文時代の祈りの対象、土偶。その多くは壊れた状態で出土します。東畑遺跡の土偶もすべて壊れていましたが、その割れ目に2mm程の“小さな穴”が開いていました。そこでX線透過写真撮影を行ってみると、土偶の内部がまるで人体の内部のように見えてきました(写真)。その結果、この穴は土偶を作るときに入れた“芯棒”の痕であることが分かりました(棒自体は燃えてなくなっている)。大きくて立つ土偶を作るために、工夫された方法なのでしょう。また胴体はいくつかの粘土塊を貼り合わせて作られていることも分かってきました。内部も丁寧に作られているんです。(柳澤 亮)

※この東畑遺跡の土偶は坂北村歴史民俗資料館で開催されている「東畑遺跡速報展」(11月6日～12月24日、月・木休館、無料)にて写真とともに展示されています。

資料提供：坂北村教育委員会、X線写真撮影：県立歴史館



X線写真で撮影された土偶

現地説明会から

こまがた 駒形遺跡 茅野市米沢北大塩



熱心に職員の説明を聞く参加者

8月21日の遺跡説明会には「子どもの頃ここでよく黒曜石を拾ったもんだ」という方など、150名もの大勢の方々が見学に訪れました。縄文時代前期の住居跡や見つかった状態の数々の尖底土器、黒曜石の原石・石器などを見たり、東海・関東地方など地元以外の土器の説明を熱心に聞いたりしていました。また、発掘体験、矢じり作りの実演、弓矢的当ての体験コーナーにも老若男女問わず楽しそうに参加されました。矢じり作りの実演には「形を作り出すのが難しそうですが、思っていたより早くできるのですね」と感心していました。発掘体験も、数分の間に十数点もの土器・石器を見つけ出し、気がついたら1時間も熱中してしまった親子連れもいました。来て、見る、聞く、やってみる中で駒形遺跡の再発見ができたのではないのでしょうか。(小林秀行)



黒曜の原石を割る職員と説明を聞く参加者

埋文告知板

長野県埋蔵文化財センターのホームページ

随時、調査情報やイベント情報を更新しているホームページは、今までに約5800件の利用がありました。多くの方に長野県埋蔵文化財センターの現在を見ていただきたいと思います。

<http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>

ぜひ、長野県埋蔵文化財センターへ



篠ノ井駅の近くにある埋蔵文化財センター

遺物の接合や実測、現場で記録した図面の整理等、発掘で見つかったものの整理作業を毎日行っています。また、埋文センターには県内外の発掘調査報告書や考古学に関する書籍が豊富にあり、自由に利用できます。私たちの仕事を見てもらい、教科書には書いてない県内の歴史を学んでください。

午前8時30分～午後5時(土・日、祭日を除く)

野帳

朝・夕は寒さを感じる頃となり、発掘調査も終盤を迎えています。今までに、発掘中の現場や調査の成果を見て頂く「遺跡説明会」を8回行い、多くの参加がありました。一般の方々には「遺跡」・「発掘現場」がどのように写るのでしょうか。興味深いところです。

初秋に日本列島に大きな被害をもたらした台風は、埋文センターがかつて経験しなかった爪あとを現場に残しました。発掘調査では埋没水田など数多くの災害痕跡や復旧痕跡が見つかりますが、被害のあった現場を見て復旧の大変さが分かりました。(河西克造)

(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007

長野市篠ノ井布施高田963-4

TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157

E-mail maibun@grn.janis.or.jp